

しんらん同人

No.556

5・6
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

【ご案内】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため
5月、6月のすべての法座を中止致します。

困れ。困らなきゃ何もできない。(本田宗一郎)

昨今の三密防止、外出自粛の中でも、私たちへの阿弥陀様の慈愛の心は絶え間なく降り注いでいます。ありがたいことです。

またこのような状況下だからこそ昨日までの歩みを止めて、心豊かな人生とは何かを考える時ではないでしょうか。

今号の故岡本泰雄師の法話に一休禅師の逸話が述べられています。

一休禅師(臨済宗)と本願寺中興の祖である蓮如上人は、室町時代に二十歳程の年の差(一休禅師が年上)がありながら、宗派の違いを超えてお互いを認め合い、交流を深めたといわれています。

またお二人の間のさまざまな問答が伝えられています。

そのひとつに、仏説阿弥陀経について、一休禅師が「極楽は 十万億土と説くならば

足腰立たぬ 婆は行けまじ」と詠み蓮如上人に送ったところ「極楽は 十万億土と説くなれど 近道すれば 南無のひと声」と返したという話があります。(浄土真宗・唯春号より)

また一休禅師の歌に「分け登る ふもとの道は 多けれど 同じ高嶺の 月をこそ見れ」があり、懐の広い方でした。

仏教は本来、ブツダ(仏・悟りを開いた人)になるための教えです。死んで仏様になるのではなく、「生きているうちに、どうやったら、仏であることに気づくことができるか」という教えです。

煩惱を消滅させ、苦しみを消し、悟りを開くことが出来たという感覚が得られれば目的が達成されます。しかし、一度その感覚を得ても、修行をやめて、物欲にまみれた生活に戻れば、元に戻ってしまいます。これでは意味がありません。言い換える

と、悟りを開くこと、ブツダになることよりも、そこに向けて常に正しい生活・正しい生き方をするのがはるかに意味があるのです。人間として正しい生き方を勧めたのが仏教といえます。

しかしこの自力修行の道は大変困難な道です。

こうした中で、来世での往生を求めて修行を行うのではなく、むしろ、すでに来世での往生を定めて下さった阿弥陀仏に感謝することが、現世での豊かな人生を過ごすことになること、勧められたのが他力の教えであり、蓮如上人がお読みになった「極楽は 十万億土と説くなれど 近道すれば 南無のひと声」です。

阿弥陀様から、お前を助けるとのお慈悲をいただいた安心の気持ちで、本堂にある「われも ひかりの うちにあり」の額で、私の大好きなお言葉です。

合掌

誓願寺初代住職 故岡本泰雄 法話

ありがとうという心



私たちは迷いに沈んでいます。仏はその迷いから救い上げて幸せにしてやりたい、浄土に生まれさせてやりたいと誓われ、そのお心を成し遂げるため、正信偈に「建立無上殊勝願 超発希有大弘誓 五劫思惟之摂受 重誓名声聞十方」とありますように、五劫という長い間ご思惟のすえ救いの道を南無阿弥陀仏と成就なされて、阿弥陀如来となりました。もうたのですから、阿弥陀とは私たちが救われる証拠です。

仏法は真実でなければなりません。作り事・ごまかしのないのが真実です。私たちの考えはすべて作り事です。なぜならいつも自分を中心に考えています。そして全体の姿を素直に受け取れずにいます。

「もつと素直にならなさい」という言葉がしばしば聞かれますが、それが難しいのは「俺が」という気持ちがあるからです。そしてその「俺が」が出来るだけよく思われたい、偉く見せたいというはからいがあります。

一休さんが、雪の深い夕方、浮浪者が寒そうにしているのを見て、着ていた綿入れを脱いで与えました。浮浪者はそれを早速着て知らん顔をしている。

「お前さん、物をもらって有難いと思わぬか」

「和尚さん、あんたはほどこしをして嬉しいと思わぬか」

さすがの一休さんも「一本やられたわい」と言って立ち去ったという逸話があります。

私はその話を時折思い出します。

人にほどこしたら「ありがとう」と言いそうなものだと思前に予測します・言わないとなんとなく落ち着きません。

先日ある奥さんからこんな話を聞きました。

お子さんがお母さんの言いつけで、お隣りへお使いに行きました。その家の奥さんは、ご苦労様と言ってお小遣いを渡しました。それから数日後、奥さんはお子さんのお母さんとはったり会いました。色々世間話をしましたが、お小遣いをもらったことなど一言もいけません。いつになつたら言うだろうと思っていました。その気配もありませんので「この間はお宅の坊ちゃんがお使いにきて下さって・・・」と言いかけたら「あの時はお小遣いまで頂いて、どうもありがとうございました」それを聞いて胸がすうーとしたというのです。

いくらのお小遣いだったかはともかく「ありがとう」といいそうなものという心がどこかに潜んでいます。それを聞くまでは安心できません。ご苦労様とお小遣いをあげたのですからそれでよさそうなのに「あげた」という気持ちだから「ありがとう」と言ってもよさそうなものに思つたのでしょうか。

浮浪者が一休さんにいったように「施しが出来て有難いと思わぬか」を忘れていきます。

もらった人は有難いと思うでしょう。やったということに対して有難いとは思えないのです。困っている人に多少なりともお手伝い出来てよかった、有難いことだと思つてあげるのはやはり難しいのでしょうか。だがあげるだけの物を持っていたから出来たのです。

謡曲「葵上」に「世の中の情けは人のためならず、我れ人のためつらければ、必ず身にも報うなり」とあります。情けをかけておけば、い

ずれお返しがあるだろう。だから自分もよい気持ちにならせてもらえ
るというものが期待されます。結局は自分のためではないかということだ
す。情けは困った人にするのだと受け取り、そうさせてもらえた自
分の幸せを喜ばずにいることをいったのです。

私たちは自分がやっていることは立派で間違いないと思いがつていま
すが、お念仏を聞かせてもらおうと、お粗末な浅ましさが知られて頭を
下げずにはおれなくなります。

無碍光如来の名号と かの光明智相とは

無明長夜の闇を破し 衆生の志願を満たす

尽十方の無碍光は 無明の闇を照らしつ

一念歡喜する人を 必ず滅土にいたらしむ

(高僧和讃 曇鸞和尚)

光明とは仏の智慧が現れた相です。長い間闇に包まれていたとは思っ
てもいなかったのが、真実の光に照らされて初めて迷いの日暮らしに気
づかされます。

「松陰の黒きは月の光かな」月が輝けば松に黒い影がでます。そのよ
うに仏の智慧の光りに会うと、我が身のほんとうの姿が照らし出され
ます。

「お寺で話を聞いていると段々自分が詰まらぬ者となつて情けなくなり
ます」といった人がいます。それこそ真実を聞いている姿です。教えに会
えばますます自分が知られて数限りなくとんでもないことをしたと気づ
かされます。だがその傷ある私を「迷いの底に沈むものを浄土へ迎え
取つて仏とならせた。もしそれが出来ぬなら仏とはならぬ」とお誓い
くださるのが仏さまのご本願です。

合掌

恐怖 不安から 感謝と喜びへ

誓願寺 副住職 古賀明徳



皆様、いかがお過ごしでしょうか？現在日本だけではなく、
世界中がコロナウイルスの恐怖にさらされています。四月二十六
日現在日本での感染者数は一万三千人、死者は三百人を超え、
世界では感染者数は二百七十万人、死者は十八万人を超えたとい
う報道です。

私の大好きだった志村けんさんや、女優の岡江久美子さんもコ
ロナからくる病気が原因で命を落とすことになりました。現在も
まだ全く収まる気配もなく、自宅待機が続く中で、いつ自分が
ウィルスにかかるか、かからないためにはどのような対策をしな
ければならないか常に考えていかなければならない状況です。コ
ロナの「恐怖」に震えて生活を送る方も少なくはないでしょ
う。

でも、こんな風にも思えます。「恐怖」と「不安」の違い
は対象がはつきりしているかどうかということにあるようです。
病気になる、ならないということはとても大きな問題であると思
います。どんな人であっても病気にはなりたくない、苦しい思
いはしたくないと思うでしょう。そして、何よりも「死にたく
ない」と思うでしょう。でも、それは「恐怖」というよりも、

それはまだ知らない 「死」ということに対する 「不安」 なのではないでしょうか。

「コロナウイルス」は「恐怖」ですが、「死」は「恐怖」ではなく「不安」なのです。そこで、「どんな者であっても、そのいのちが尽きる時には必ず悩みや苦しみを持たずに生きることでできる仏様としてお浄土へ迎え取ってみせる！」と誓われた阿弥陀如来様のお心をお聴かせいただいていたのなら、少しかもしれません。「死」に対する「不安」の気持ちは収まってくるのではないのでしょうか。「いつコロナにかかってしまうのだろうか。」「いつ私は病気になるって死んでしまうのだろうか。」という恐怖の気持ちを抱えながら生きる人生と、いつコロナにかかってしまい、いのちを落とすことになったとしても、今周りから生かされ生きているいのちを大切に感謝させていただき、いのち終わった後も阿弥陀如来様に救われ、お浄土に生まれさせていただけることを喜びながら生きる人生、どちらの方が尊いのでしょうか。

今、世間には「コロナウイルス」という「恐怖」が広がっています。でも、そんな時だからこそ、改めて阿弥陀如来様の救いについて考えるきっかけとすることができ、改めて喜ばせていただくことができましたのであれば、「恐怖」すら「喜びのきっかけ」として変えていくことができるのではないかなと考えさせていただけます。私はそのように思います。

2/2

【ご法座等）中止のご案内

新型コロナウイルス感染拡大防止のため

5月 6月までの法座 なかよしクラブを中止致します。

編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、緊急事態宣言が発出されて一ヶ月、五月のゴールデンウィークも、がまんウィーク・ステイホーム週間に変わり、市街地から人影が減少しています。

この状況を受けて、誓願寺も五月六月の法座を休止いたしますことを決定いたしました。定例の法座がいつ再開できるかはまだわかりませんが、「朝が来ない夜はありませぬ。お互い健康に留意しその時を迎えましょう。

お寺は、換気を定期的に行うなど、三密を防止して平常通り開いています。個別のご法事としてご利用ください。また、ご自宅でご法事を勤めることもできます。お気軽にご相談ください。

ご来寺やお参りの際は、マスクを着用したままで構いません。体調のすぐれない方はご無理をされないようお願いいたします。